

「自分史」

九十歳 女性

「私は家で待つてくれている娘の為にも、早く元の様に元気な体になり帰りたい私が一番大切に思っている事は健康が一番です健康に気を付けて大好きな野菜作りをしたい自分をわかってくれる人が、側に居てくれる。それだけで生きる力に繋がっています。これからも二人仲良く過ごしましょう。」

平成二十年九月二十九日に
大腿骨折の為にリハビリ自的で
医療法人 久康会 平田病院に入院する

目次

発症について

入院について・・・（リハビリ）

趣味について・・・（野菜作り）

仕事について

家族について・・・（娘、私、孫）

骨折について

平成二十年九月二十九日に自宅の廊下で足を滑らせて転倒してしまいました。

自分では、打ち身だと思い、痛みはありましたが自宅で湿布をして数日様子をみていました。

それでも痛みが続いていたので

十月三日にA病院を受診しました。

M R I 撮影して左大腿骨転子部骨折と診断されてそのまま入院になりました。

十月九日に左足に手術（観血的整復術）を受けました。その後の経過も良好だったので十月三十日に紹介されて平田病院にリハビリ目的で転院になりました。

入院について・・・（リハビリ）

平成二十年十一月から始めた

リハビリも順調で

自宅にお風呂に入るために

外出できるようになるまでに回復しました。

娘も喜んでくれて

これからお風呂場を改造しようかと考えて

くれているようです。

リハビリはきつくはないのですが

あんまり運動しすぎると、

次の日に痛みが出るといけないと思って

担当の先生に、「もういいが」といいます。

自分でも運動しすぎないように

気をつけています

時々面会に来てくれる娘の為にも

早く元気になり、自宅に帰りたいです

「今年中にでも退院出来ればいいな」

と思っています。

自宅でも私のために、これからまた

転ぶような危険な場所がないように

改造の準備が進んでいるようです。

やっぱり家がいいですね、

趣味について

私は自宅の庭、プランターで

野菜やお花を作るのが大好きです

野菜を作っては近所の方に差し上げます、

すると近所の方も、また、お返しに、

なにやら持ってきてくれます。

そんなこんなして、御近所の方と

楽しくお付き合いしています。

野菜の肥料はお茶葉がいいです

お茶を飲んだあとの、茶ツ葉、

野菜の根元にまくとぐんぐん育ちます。

私は、ねぎとハスガラ、大根、白菜もプランターで作ります。

白菜は店の、売り物のように

巻き方は、あまりよくないけども

自分の家で食べるには、十分です

大根もすり大根ぐらいには最適ですよ、

多分、今は入院している私にかわって娘が水やりをして世話してくれていると思います。

出来たら収穫する分とは別に花が咲くまで待つて

種を取って置きます

すると又種をまく事が

できるので私はそうして種を

取っておきます



最近お風呂に入り家に外泊で帰ると、

おかずを色々作っているようで食べさせてくれます。

料理の腕も上手になって来ています。

クサギナ、という雑草はくさいが

炒めて食べるとおいしいですよ

臭みがありますが、水に浸しておけば

臭みも取れますし私たちは戦争時代を過ごしてきたから

何でもたべて来ました。

家族について・・・（娘、孫、私）



娘は離婚して、孫と娘と私で

四人で一緒に暮らしていました。

孫は男の子が二人いますが、

もう結婚してすぐ近くに暮らしています。

野菜を作ればすぐにあげられる所にいてくれます

ひ孫は県外の佐賀の大学に通っています

「婆ーちゃん 元気でいてね」と言ってくれます。

動物好きで将来の仕事は、そちらの方に

進みたいようです

娘は私が丹精こめて

育てた花や野菜の世話をしてくれているようです。

時々面会にきては「お金ある？」

と気使って声を掛けてくれます

やさしい気持ちがあつねしいです。

自宅も私が帰った時に危なくないように

庭に塀を

作ったりしているようです

娘とはよく口喧嘩もするし、

両方とも勝ち気で負けていないから言いたい事は

言いあっています。

でも、すぐに仲直りできるのでとてもいい

関係だと思えます。

私が朝ご飯を残していると、

食べ残しのご飯をおにぎりにして

テーブルの上において置いてくれます

本当に私に良くしてくれます

仕事について

若い時は主人と理髪店をしていました

娘も理容師だったのですが、

私は夫人の仕事の手伝いをしました。

主人は仕事には厳しい人で私にも厳しく

つらかった事を覚えています

主人は昔かたぎの厳しい人について

修行してきたので

散髪の腕は良くて、遠い所から通って

来てくれる人も沢山いたので、

一日中大変忙しく働いていました

仕事がつらくて逃げ出したいと

何度も思った事があります。

主人は月に一回の休みには、囲碁をして

楽しんでいました。

私は、理髪店は休みの日でも、タオルの洗濯が忙しく
休みは取れませんでした。

そんな私達をみていたからか来るお客を待つ仕事よりも
務めに出た方がいいと言い

娘は勤めに出るようになりました。

主人が六十五歳で

他界してからは、理髪店を閉めて、

娘と二人の孫の、四人で暮らしてきました。



くあとがきく

お話をきいていると、娘さんのお母さんへ

思いやりや、気使い、

お二人のお互いを思う気持ちが

良く伝わり

ほのぼのとした、気持ちになりました。

一番分かり合える人が

側に居る事の幸せ、ありがたさもありますね

これからも、娘さん二人ともに、

お元気でいつまでも

仲良くお過ごしください。

発行者 医療法人 久康会

磯谷光子